

太陽光

福島県の採石場跡地に2・7メガワツメガソーラーを建設 災害復興における地域住民のインフラ整備の一環

スマートソーラー

スマートソーラーは、福島県広野町の採石場跡地で「広野ソーラーパーク」の建設工事を開始した。

同社は日本アジア投資などが出資して事業運営を行う。同社は発電所の開発・基本設計・施工監理・事業運営・保守管理を担う。事業会社はJPMエカソーラー発電所合同会社。

採石場跡地に太陽電池パネル9372枚を設置する。最大出力は2・7メガワツ、年間予想発電電力量は一般家庭約600世帯の年間消費量に相当する3290メガワツ時を見込んでい

る。売電開始は2019年4月26日を予定している。

「広野ソーラーパーク」完成予想図(提供:スマートソーラー)



西は阿武隈山地が連なり、東は太平洋に臨む広野町は、2011年に発生した東日本大震災で震度6弱を観てきた。さらに2040年度を目標に、県内で消費する再エネの割合を100%まで引き上げたいとしている。

広野ソーラーパークの特長は、まず災害復興における地域住民のインフラ整備の一環として、太陽光発電による電力供給を行うことにある。次に採石場跡地の有効利用が挙げられる。採石場跡地である平地に発電所を建設することで建設コストを抑えることができる。

スマートソーラーは発電の最大化と効率化を図るため、

■太陽電池と分散型パワーコンディショナ(PCS)に昇圧変圧器を最適配置し、配線ロスを最小化する計画だ。

同社は全国で35カ所、合計230メガワツを超えるメガソーラー発電所の開発、設計・調達・建設監理、運用・保守を手がけている。そのうち自社発電所は8カ所(合計15・5メガワツ)、出資発電所は11カ所(合計138メガワツ)ある。

必要エネ度(再生エネ)を再生エネで賄う計画を進め